

令和7年度 弘済(分校)中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	22	42	22	15.9	24.5
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
理科	
学校	454
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	20	55.3	42.1	39.3	35.6	30.4	11.6	11.5	17.6	14.8	17.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
11月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 弘済(分校)中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

全国・大阪市と比較して、平均正答率、平均無回答率とも下回る結果となった。特に、「書くこと」の領域において、全国の平均正答率より-16.4%という結果になった。また、領域別正答率も全体的に低い結果となった。

<数学>

全国・大阪市と比較して、平均正答率、平均無回答率とも大きく下回る結果となった。特に、「数と式」および「図形」の領域において、全国の平均正答率よりそれぞれ-26.2%、27.2%という結果になった。その他の領域別正答率も全体的に低い結果となった。

<理科>

全国・大阪府と比較して、平均IRTスコア、平均無回答率とも下回る結果となった。平均正答数は全国平均が2.9/6で本校平均が2.0/6であった。

○大阪府中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

大阪府の平均点(64.2点)より8.9点下回る結果となった。無回答率は大阪府平均の6.8より高い11.6という結果となった。

<社会>

大阪府の平均点(51.2点)より9.1点下回る結果となった。無回答率は大阪府平均の6.5より高い11.5という結果となった。

<数学>

大阪府の平均点(53.9点)より14.6点下回る結果となった。無回答率は大阪府平均の12.1より高い17.6という結果となった。

<理科>

大阪府の平均点(46.0点)より10.4点下回る結果となった。無回答率は大阪府平均の11.0より高い14.8という結果となった。

<英語>

大阪府の平均点(53.2点)より22.8点下回る結果となった。無回答率は大阪府平均の7.4より高い17.7という結果となった。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

基礎学力の定着をはかるとともに、教育活動全体を通じて言語活動を継続して実施し、「書くこと」を習慣化させていきたい。

<数学>

すべての領域で基礎・基本の定着を図り、特に関数に関しては、系統的な学習を意識させて取り組ませていく。

<理科>

興味関心を高める授業を意識し、動画視聴や実験実習、実演を多く取り入れた授業展開を進めていく。

○大阪府中学生チャレンジテスト(3年生)

・すべての教科で大阪府の平均点より下回る結果となった。習熟度別少人数授業において基礎・基本の定着を図る必要がある。

・無回答率においても大阪府平均より大きく高い結果となった。最後まで諦めずに学習に取り組む習慣を身につけさせる取り組みを進める。

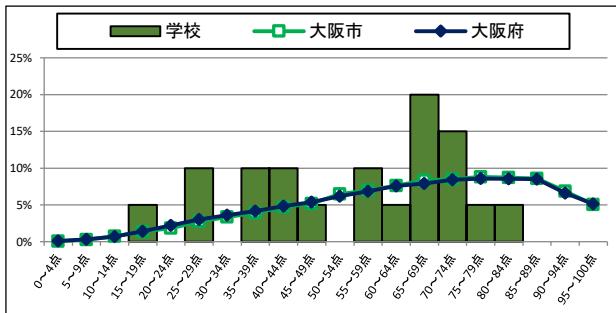
・教育活動全般を通じた言語活動の取り組みの成果が徐々に表れている。今後も取り組みを継続して、自分の考えを文章でまとめ、言葉で発表できる場面を増やしていく。

大阪市立弘済(分校)中学校 令和7年度「中学生チャレンジテスト(3年生)」検証用グラフ

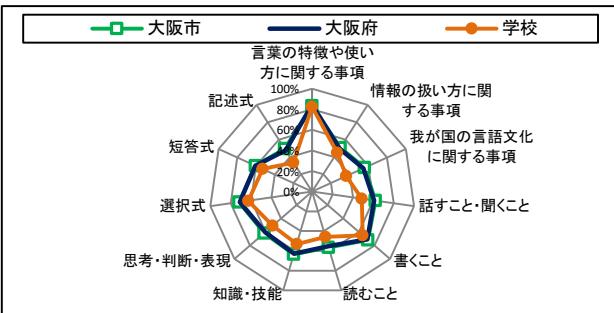
令和7年9月2日(火)実施

【国語】

【得点分布】

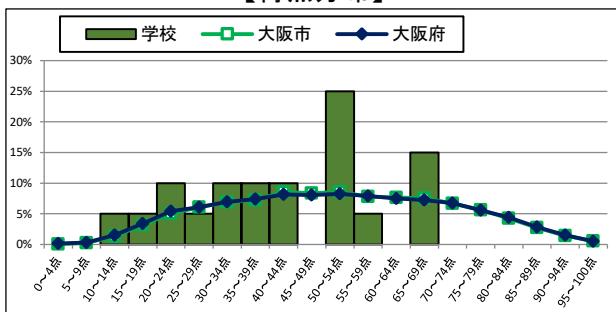


【内容・観点・問題別の分布】

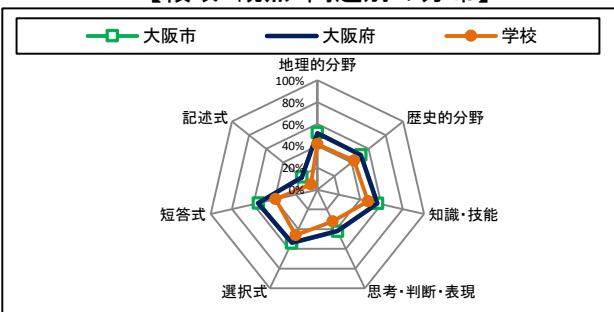


【社会】

【得点分布】

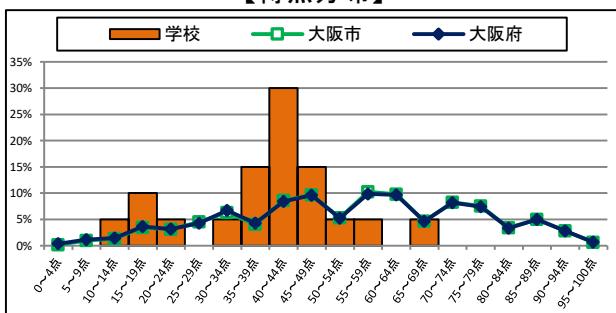


【領域・観点・問題別の分布】

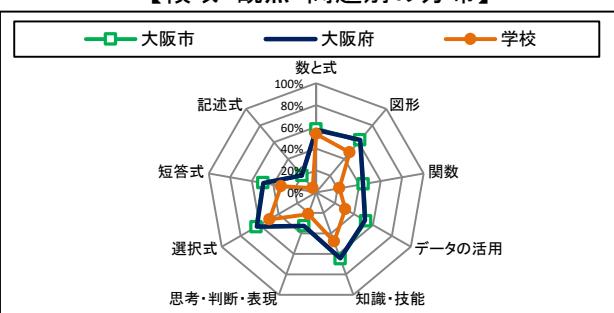


【数学】

【得点分布】

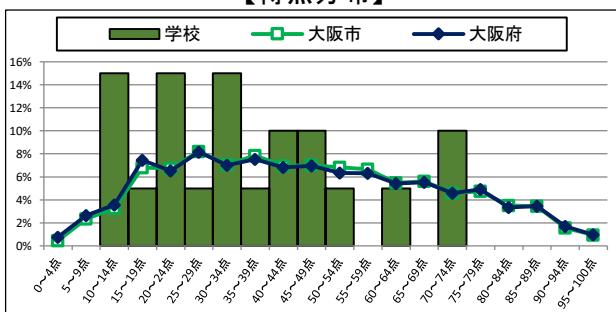


【領域・観点・問題別の分布】

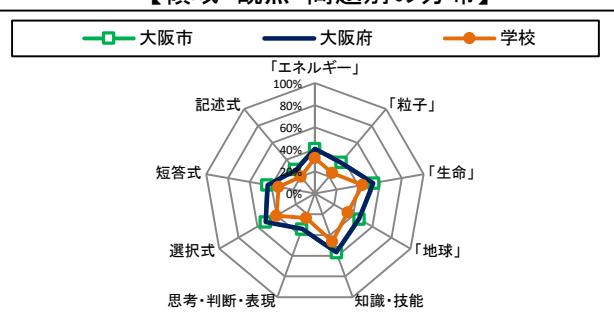


【理科 B】

【得点分布】

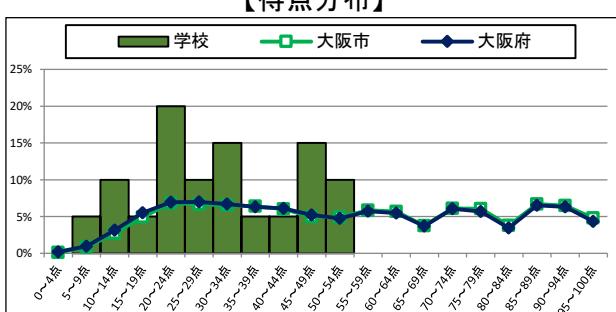


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

